



▲地熱熱水の利用によるウナギの養殖試験（小国町）

球磨川、川辺川流域の洪水の防止と農業開発（川辺川総合土地改良事業）をはかるとともに水力発電による電力供給によって人吉、球磨地域の総合開発を促進します。

★川辺川ダム建設促進……………

一億八千万円
球磨川、川辺川流域の洪水の防止と農業開発（川辺川総合土地改良事業）をはかるとともに水力発電による電力供給によって人吉、球磨地域の総合開発を促進します。

★地熱開発計画調査費……………

九百三十五万円
本年度は環境調査井の観測を継続するとともに、現在までの全調査資料を総合解析し、今後の調査及び開発の進め方について指針を作成します。

☆地下水保全対策……………六百八十万円

熊本の地下水は清冽でうまいと定評があります。この地下水の保全と、採取に伴う障害の防止を図るため、昭和五十三年十二月に地下水条例を制定しましたが、今後、条例の施行により地下水の合理的な使用と県民の意識の高揚に努めるとともに、指定地域内の市町村においては地下水採取時の届出等を義務付けて地下水資源の保全対策に取り組みます。

★水資源開発調査……………千六百万円

増大する水資源の需要に対応するため、治水、利水の面から県内の主要河川の総合的開発を図る必要があり、このため水資源開発地点の基礎的調査、天草地域水資源開発調査、水需給動態調査等を行います。

★竜門ダム建設促進……………

千九百九十万円
しかし、川辺川ダムの建設は水没面積が大規模であり、地域住民の方々の生活環境が急激に変化するため各種の対策が必要ですが、その一環として、生活再建総合相談所の設置及び代替地等先行取得資金に対する利子補給の補助を行います。

★地熱熱水有効利用調査……………七百五十四万円

地熱開発の一環として、発電に利用される天然の蒸気とともに湧出する熱水の有効利用について、五十二年年度から三年計画で小国町岳ノ湯地区において熱水利用によるウナギの養殖試験を実施していますが、前年度に引き続き事業を実施し、五十四年度を最終年度とし、その有効性を実証することとしています。



▲国内線の充実、国際線の誘致導入を図る熊本空港

豊かな生活を保障し、活力に富んだ魅力ある地域社会を形成し、地域開発を進めるため、生活の都市化、広域化、経済活動の活性化に即応した総合交通体系の整備を図るため、基幹交通網として、九州縦貫自動車道、九州新幹線鉄道の建設を重点的に促進しております。同時に熊本港を始め港湾施設整備及び国道、県道の整備についても積極的に推進しております。

★九州縦貫自動車道建設促進……………五百七十六万円
昭和四十三年六月熊本～南関が着工されて以来、現在八幡～松橋・鹿児島～溝辺鹿兒島空港、及びえびの～高原間の約二二六キロメートルが供用されています。

★九州新幹線鉄道建設促進……………二千八百五十九万円

本格着工へ向かって大きく前進する中央情勢に対応し、政府に対し、早期着工を強く要望するとともに、受け入れのための地元対応策を積極的に推進するため、建設促進団体及び建設協力体制を充実強化します。

等々の諸調査を実施します。
★熊本空港整備促進……………六千二百八十九万円
熊本空港整備は第三次空整の最終年度にあたる五十四年度中に滑走路が二、五〇〇メートルから三、〇〇〇メートルになるほか、エプロン・ベースの新設、誘導路等が完成する予定であります。これに必要な予算措置として、県の負担額約六千百万円を計上しております。

特に本年度は、国の早期着工へ向け、前向きな予算決定等により、国鉄委託の新幹線環境実態の詳細及び運輸省委託による新幹線に関する各種協力の方策

★熊本港の建設促進……………八億九千万円

熊本港の建設については、現在関係漁業協同組合のご理解によって橋りょうの橋脚工事を進めているところですが、昭和五十四年度は国の重要港湾整備事業費で、熊本港分として、補助事業で四億円が決定しており、引き続き橋脚工事を施行します。

単県予算は、前年度に引き続き必要な調査事業と、今後熊本港建設のため影響を受ける周辺海域の水産物の振興を図る必要がありますので、今回新たに熊本港周辺海域漁業振興基金を創設するとともに、初年度四億円の積立と、種苗の放流、漁業基盤の整備等漁業の振興に三千万円を計上し、積極的にを行うこととした。